

明治以降に日本列島とその周辺で発生した大地震

海洋研究開発機構・吉田晶樹作成 (2016年11月24日更新)

海溝型・衝突境界型地震 ($M \geq 7.6$)							内陸(活断層)型地震 ($M \geq 6.8$)					
順	発生年月日	名称・(地域)	M	M _w	深さ	死・不明	順	発生年月日	名称・(地域)	M	M _w	死・不明
1	2011/ 3/11	東北地方太平洋沖地震	9.0	9.1	24	18,452	1	1891/10/28	濃尾地震	8.0	—	7,273
2	1896/ 6/15	明治三陸地震	8.2	8.6-9.0	—	21,959	2	1964/ 6/16	新潟地震	7.5	7.6	26
2	1952/ 3/ 4	十勝沖地震	8.2	8.2	54	33	3	1995/ 1/17	兵庫県南部地震	7.3	6.9	6,437
2	1994/10/ 4	北海道東方沖地震	8.2	8.3	28	10	3	1927/ 3/ 7	北丹後地震	7.3	7.1	2,912
5	1933/ 3/ 3	昭和三陸地震	8.1	8.4	20	3,064	3	1930/11/26	北伊豆地震	7.3	6.9	272
5	2015/ 5/30	(小笠原諸島西方沖)	8.1	7.9	681	0	3	2016/ 4/16	熊本地震	7.3	7.0	50
5	1963/10/13	(択捉島付近)	8.1	8.5	—	(?)0	3	1924/ 1/15	丹沢地震	7.3	—	19
5	1958/11/ 7	(択捉島付近)	8.1	8.3	30?	(?)0	3	2000/10/ 6	鳥取県西部地震	7.3	6.8	0
9	1946/12/21	昭和南海地震	8.0	8.1	24	1,443	9	1943/ 9/10	鳥取地震	7.2	7.0	1,083
9	1918/ 9/ 8	(択捉島付近)	8.0	—	—	24	9	1896/ 8/31	陸羽地震	7.2	—	270
9	1911/ 6/15	喜界島地震	8.0	8.1	—	12	9	2008/ 6/14	岩手・宮城内陸地震	7.2	6.9	23
9	2003/ 9/26	十勝沖地震	8.0	8.3	42	2	12	1948/ 6/28	福井地震	7.1	7.0	3,769
13	1923/ 9/ 1	関東地震	7.9	7.9	25	105,385	12	1872/ 3/14	浜田地震	7.1	—	555
13	1944/12/ 7	昭和東南海地震	7.9	8.1	40	1,183	12	1914/ 3/15	秋田仙北地震	7.1	—	94
13	1968/ 5/16	十勝沖地震	7.9	8.3	0	52	12	1914/ 1/12	桜島地震	7.1	—	35
13	1894/ 3/22	(根室沖)	7.9	—	—	1	16	1894/10/22	庄内地震	7.0	—	726
17	1993/ 7/12	北海道南西沖地震	7.8	7.7	35	230	16	1894/ 6/20	明治東京地震	7.0	—	31
17	1966/ 3/13	(台湾東方沖)	7.8	—	—	2	16	1978/ 1/14	伊豆大島近海地震	7.0	6.6	25
17	2010/12/22	(父島近海)	7.8	6.4	8	0	16	1961/ 8/19	北美濃地震	7.0	6.4	8
17	1969/ 8/12	(色丹島沖)	7.8	8.2	38	0	16	2011/ 4/11	(福島県浜通り)	7.0	6.6	4
21	1983/ 5/26	日本海中部地震	7.7	7.7	14	104	16	2005/ 3/20	(福岡県西方沖)	7.0	6.6	1
21	1998/ 5/ 4	(石垣島南方沖)	7.7	7.4	35	0	16	1902/ 1/30	(青森県東部)	7.0	—	1
21	1897/ 8/ 5	(宮城県沖)	7.7	—	—	(?)0	16	1900/ 5/12	(宮城県北部)	7.0	—	<17
21	1893/ 6/ 4	(色丹島沖)	7.7	—	—	(?)0	24	1974/ 5/ 9	伊豆半島沖地震	6.9	6.5	30
25	1994/12/28	三陸はるか沖地震	7.6	7.8	0	3	24	1922/12/ 8	島原地震	6.9	—	26
25	1984/ 3/ 6	(鳥島近海)	7.6	7.4	452	1	24	1931/ 9/21	西埼玉地震	6.9	—	16
25	1924/ 7/ 1	(択捉島沖)	7.6	—	?	0	24	2007/ 3/25	能登半島地震	6.9	6.7	1
25	1910/ 4/13	(石垣島北西沖)	7.6	—	—	0	24	1963/ 3/27	越前岬沖地震	6.9	6.9	0
25	1909/11/10	(宮崎県西部)	7.6	—	—	0	29	1945/ 1/13	三河地震	6.8	6.6	2306
25	1906/ 1/21	(三重県南東沖)	7.6	—	—	0	29	1925/ 5/23	但馬地震	6.8	—	428
以下、参考												
—	1940/ 8/ 2	積丹半島沖地震	7.5	7.7	—	10	29	2004/10/23	新潟県中越地震	6.8	6.6	68
—	1993/ 1/15	釧路沖地震	7.5	7.6	101	2	29	1909/ 8/14	江濃地震	6.8	—	41
—	1968/ 4/ 1	日向灘地震	7.5	7.5	30	1	29	1984/ 9/14	長野県西部地震	6.8	6.4	29
—	1938/11/ 5	福島県沖地震	7.5	—	—	1	29	1939/ 5/ 1	男鹿地震	6.8	—	27
—	1978/ 6/12	宮城県沖地震	7.4	7.6	40	28	29	2007/ 7/16	新潟県中越沖地震	6.8	6.6	15
—	1947/ 9/27	与那国島近海	7.4	—	96	1	29	1922/ 4/26	浦賀水道地震	6.8	—	2
—	1973/ 6/17	根室半島沖	7.4	7.8	40	0	29	2008/ 7/24	(岩手県沿岸北部)	6.8	6.8	1
—	1905/ 6/ 2	芸予地震	7.3	7.2	50	11	以下、参考					
—	2012/12/ 7	(三陸沖)	7.3	7.3	49	1	—	2011/ 3/12	(長野県北部)	6.7	6.4	3
—	1901/ 8/10	(青森県東方沖)	7.2	—	—	<18	—	2016/10/21	(鳥取県中部)	6.6	6.3	0
—	2011/ 4/ 7	(宮城県沖)	7.2	7.1	66	4	—	2016/ 4/14	熊本地震 (前震)	6.5	6.2	9
—	1978/12/ 6	(択捉島沖)	7.2	7.8	?	(?)0	—	1949/12/26	今市地震	6.4	—	10
—	1931/11/ 2	(日向灘)	7.1	—	28	1	—	1889/ 7/28	(熊本県西部)	6.3	—	20
—	1899/ 3/ 7	(三重県南部)	7.0	—	45	7						
—	1964/ 5/ 7	男鹿半島沖地震	6.9	7.0	15	0						
—	2001/ 3/24	芸予地震	6.7	6.8	46	2						
—	2009/ 8/11	(駿河湾)	6.5	6.2	23	1						
—	2000/ 7/ 1	(新島・神津島近海)	6.5	6.1	16	1						
—	2012/ 3/14	(千葉県東方沖)	6.1	6.0	15	1						

©吉田 晶樹 (myoshida@jamstec.go.jp)

明治元年(1868年)以降に日本列島とその周辺で発生した海溝型・衝突境界型地震 ($M \geq 7.6$)と内陸(活断層)型地震 ($M \geq 6.8$)のうち、マグニチュード(M)が大きい順で30位までの地震。参考として、1999年以前は死者・行方不明者が10名以上出た地震、新島・神津島近海地震が発生した2000年以降は死者・行方不明者が1名以上出た地震、また、海溝型・衝突境界型地震ではM 7.5で死者・行方不明者が1名以上出た地震、及び、1964年男鹿半島沖地震、2016年鳥取県中部地震、明治以降の「スラブ内浅発大地震」(後述)を加えている。2016年熊本地震は、本震とされる4月16日の地震と、前震とされる4月14日の地震(本表では、「熊本地震(前震)」と記載)に分けて赤色の太字で強調し、1889年の熊本県西部地震は黒色の太字で強調している。震源の深さ(d)の数字が赤字で太字の地震は、dが60 km以下、M7.0以上で定義される、沈み込んだ後の海洋プレート内で起こった「スラブ内浅発大地震」(Seno and Yoshida, 2004)。青字で太字の地震は、やや深い場所(dが60 kmから300 km)で起こったスラブ内地震を表す。マグニチュードMは多くの場合、気象庁マグニチュード(M)と同じであるが、例えば、2011年の東北地方太平洋沖地震のM9.0はモーメントマグニチュードで、M₀(暫定値)は8.4、M_wはモーメントマグニチュードで、1976年以降はグローバルCMTプロジェクトの値を採用し、それ以前は下記の参考文献から引用。青色の欄は昭和東南海地震が発生した1944年以降の地震、緑色の欄は1976年以降の地震、黄色の欄は兵庫県南部地震が発生した1995年以降の地震を表し、灰色の欄は19世紀(1868~1900年)に発生した地震を表す。1923年関東地震は、武村(1998)では内陸(活断層)型地震に分類しているが、本表では衝突境界型地震に分類している。2001年芸予地震、及び震源がほぼ同じ場所の1905年芸予地震はフィリピン海プレートのスラブ内で起こった浅発地震として海溝型地震に分類している(例えば、Seno and Yoshida, 2004)。衝突境界型地震に分類した地震のうち、日本海東縁変動帯で発生した地震は下線を引いている。内陸(活断層)型地震に分類した地震のうち、新潟・神戸至集中帯(NKTZ)で発生した地震は下線を引いている。死者・行方不明者の数で、下線が付いた数字は下記、気象庁の情報優先的に掲載し、2011年東北地方太平洋沖地震については警察庁緊急災害警備本部広報資料(平成28年6月10日)、1923年関東地震は諸井・武村(2004)から引用した。参考資料：[1]国立天文台編、理科年表(平成28年)、丸善出版。[2]国土交通省気象庁、「過去の地震津波災害」[ウェブページ](#)。[3]国土交通省気象庁、「日本付近で発生した主な被害地震(平成8年以降)」[ウェブページ](#)。[4]政府 地震調査研究推進本部、「都道府県ごとの地震活動」[ウェブページ](#)。[5]国立研究開発法人防災科学技術研究所、地震の基礎知識とその観測。[ウェブページ](#)。[6]宇佐美 龍夫ほか、「日本被害地震総覧 599-2012」, 東京大学出版会, pp.694, 2013。[7]The Global CMT project, [Global CMT Web Page](#)。[7]地震調査研究本部、「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第二版)について」, 2004。